

県立図書館だより

年末・年始の休館のお知らせ

12月28日(火)～1月3日(月)は休館いたします。

12月28日から1月3日は年末・年始の休館となりますのでよろしくお願いいたします。休館日の図書の返却は、入口のブックポストにお願いいたします。なお、12月27日(月)は定例の休館日となっている他、1月4日(火)は館内整理日ですので、ご利用は2階閲覧室の図書の閲覧のみで貸出は行いませんので、ご注意ください。

今月の主催事業のお知らせ

— 今月県立図書館で開催される行事を紹介しします —

県立図書館おはなし会

3階多目的ホール



第3回 クリスマスおはなし会 期日：12月18日(土) 10:30～12:00

対象：幼児・小学生とその保護者 30組程度 (定員になり次第締め切ります)

講師：子ども読書支援センター相談員、読み聞かせサポーター等

内容：フルートによるミニコンサート、読み聞かせ実演、読み聞かせたい本のアドバイス

申し込み：参加費は無料です。子ども読書支援センター(県立図書館内)へ電話(018-866-0266)で申し込むか、申込書に必要事項を記入し、FAXまたは郵送で申し込んでください。締め切りは12月16日(木)です。



< 1月の行事予定 >

県立図書館館長講座 第6回 1月22日(土) 13:30～「地方知行制の実態」 場所：3階多目的ホール

県立図書館おはなし会 第4回 1月8日(土) 場所：3階多目的ホール

ビジネス支援セミナー 第2回 1月29日(土) 13:30～ 場所：生涯学習センター

閲覧室のレイアウト変更について

— 無線LANでインターネット接続が可能になりました —



< 広がったビジネスルーム >

今回の特別整理期間中に閲覧室内のレイアウトを一部変更しましたので、主なものについてお知らせいたします。まずビジネスルームを拡大しました。これまでの社会人専用室・ビジネスルームの間仕切を取り除き一室になり、無線LANによるインターネット接続が可能になりました。カウンターで申込みをしてパスワードカードの貸出しを受けてからご利用下さい。なおLANカードの貸出しは行いませんので、各自ご準備下さい。また、調べ学習コーナーを拡大し、子ども利用者がより調べ学習をしやすいスペースにしました。その他AV資料コーナー・大活字本コーナーを移動、新聞の配架場所を一部変更、マイクロリーダーの場所を移動しました。

今月の県立図書館小展示の紹介

— 毎月テーマを決めて本の紹介をしています —

平成16年度 第8回展示 **みんなで手をつなごう ～"ひと"と"ひと"とが支えあう社会!!～**

"ひと"と"ひと"が協力したり、助け合う社会を応援するために福祉・高齢者問題・ボランティア・家族・健康・男女共同参画社会関連・労働等の分野から資料を選び、展示・貸出します。

期間：11月22日(月)～12月18日(土) 場所：2階閲覧室

平成16年度 第9回展示 **一味違う冬休み!**

小中学校の冬休みにあわせて、テーマに関連する資料を展示・貸出します。

期間：12月20日(月)～1月23日(日) 場所：2階閲覧室



県立図書館司書がお勧めする一冊

— 県立図書館の司書2人が毎回お勧めの本を紹介しませう —

書名 『おろしや国酔夢譚』 井上 靖 著 岩波書店 1981

〔推薦者 小林 祐子〕

今夏、サンクトペテルブルグを訪れた。かつてのロシアの都ペテルブルグ、レニングラードと名をかえているが、18世紀の歴史のかけらを拾うにふさわしい都である。夏の離宮として、当時権力者であった、エカテリーナ女帝がしばしば訪れていた。その宮殿は旧都の郊外にあり、戦時中のドイツ軍の本部として使用され一時は荒廃していたが、すっかり復元されていた。その宮殿の一画、鏡の間、謁見の間は鏡の周りを菩提樹でレリーフされ、その上を金箔で覆われたゴシック建築様式の代表的なものであった。玉座を見たとき、かつて難破船で漂流した日本人大黒屋光太夫がここで、女帝と相対した事を想像すると、胸が高鳴った。そこでこの小説を読んで見ることにした。歴史小説の大家、司馬遼太郎もこれほどの名作は、書けないとして彼に譲ったという。

この小説は、18世紀末に伊勢を出帆して、江戸に向かった神昌丸が途中で難船しアレウト列島のアムチトカ島に漂流、船には船頭である光太夫等17人が乗り込んでいるが、1人は、漂流中に死に残りの者は、ロシア人に助けられる。そのうち7名はこの氷雪の孤島で没する。それから残りの者は、ロシア人達と協力して船を造り、カムチャッカ半島に渡るが、うち3人は、ここで餓死する。残りの6名の者が大陸に渡りヤクーツクを経てイルツークに連れてこられる。

1789年(寛政元年)2月のこと、この町で帰国の方便を得ようとするが、帰国まで10年の歳月を要することになる。船頭光太夫は、あくまで帰国の希望を棄てず、キリル・ラックスマンの助力を得、ペテルブルグでエカテリーナ女帝に謁し帰国の許可を得る。3人は、10年間の漂流生活の果てに北海道根室の地を踏むが、1人は病没し函館、松前、江戸の地を踏んだのは光太夫ら2人だけであった。ようやく帰国の念願がなされた2人を待っていたのは、半幽閉の生活であった。日本の鎖国政策で、最初のロシア使節として同行した、キリルの子息、アダム・ラックスマンは修好の目的果たさず帰国したのである。

自力では、どうすることも出来ない状況下で、希望を棄てずに郷里にどうしても帰るという一念を貫きとうした生き様に圧倒される。歴史の一ページを彩った謁見の間から、宮殿の庭を散策した。秋の気配が漂っていた。いつかまた訪れる機会があることを心に誓いながら宮殿を後にした。

書名 『今、読書が日本人を救う』 鈴木健二 著 グラフ社 2004

〔推薦者 阿部 純子〕

「本離れ・読書離れ」が危惧されています。読書よりも、テレビやインターネットで情報や知識を得ている方、また、多忙な日々を追われ、ゆっくり読書をする時間を取れないという方も多いのではないのでしょうか。

著者は元NHKのアナウンサーであり、後には、お隣青森県立図書館館長を務めました。

この本には、読み聞かせの大切さ、テレビ・インターネットの功罪、本離れがもたらすもの、読書の効用等、テレビ・図書館両方の仕事に携わった著者が、自ら調べ経験したことが記されています。そして、「読書は単に頭を良くするだけではなく、良い人を作る全人格的な効用を持っている」と述べます。

普段読書に親しんでいる方は勿論そうでない方も、1冊を読み通した後に得られる満足感を味わってみるのもよいのではないのでしょうか。その本を図書館で探してみてください。

けいじばん

・特別整理期間中のご協力ありがとうございました。

今回の特別整理期間中に当館では閲覧室のレイアウト変更、蔵書の移動・点検等の作業を中心に行いました。期間中、皆様にはご不便をお掛けしましたが、ご協力ありがとうございました。

・県立図書館メールマガジンを創刊しました！

県立図書館ではメールマガジンを11月に創刊しました。当館からのお知らせ、行事のご案内、新着図書を紹介等、図書館の利用に役立つ情報をメールでお送りするものです。月2回の発行です。現在41名の方が登録されております。まだまだ多くの方の登録をお待ちしておりますので、どうぞご利用下さい。申込みは当館にある「メールマガジン申込書」を利用するか、氏名・登録番号・メールアドレスを記入の上 mailmag@apl.pref.akita.jp まで送信してください。

12月の休館日のお知らせ

■ は休館日です。△ は館内整理日です。(月の初日、1月4日が館内整理日です。ご利用は2階閲覧室の図書の閲覧のみとなり、貸出等は行いません)

日	月	火	水	木	金	土
			△	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

開館時間

平日 午前10時～午後8時(4月～10月)
 午前10時～午後7時(11月～3月)

土日・祝日・館内整理日 午前10時～午後5時

休館日の図書の返却は、入口のブックポストへお願いいたします。